

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

H30年5月11日

三田市議会議長 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	盟政会	代表者	福田 秀章	印
		議員名		
派遣者氏名	今北義明・福田秀章・森本政直・幸田安司・白井和弥			
視 察 先	① 山口県防府市 ② 山口県周南市 ③ 広島県廿日市市			
調査事項 (調査目的)	① 菅公みらい塾について ② 徳山駅前賑わい交流施設について ③ 中山間地域の公共交通について			
日 時	H30年4月24日(火)～ H30年4月26日(木)			
視察先対応者	① 防府市学校教育課 課長岡本昭彦氏・同 指導係長山本健作氏 ② 周南市中心市街地整備課次長野村正純氏・同係長藤井香氏 ③ 廿日市市都市計画課次長久保伸治氏・同 交通政策係長田村恭宏氏			
添付資料	① 防府市の学校教育・土曜日の教育活動推進事業について・菅公みらい塾応募用紙 ② 周南市の概要・徳山駅前賑わい交流施設の概要 ③ 廿日市市地域公共交通再編実施計画・事業シート・自主運行バス概要・利用対象地区と主な乗降場所			

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	H30年4月24日(火) 14時00分～15時30分
視察先	山口県防府市
調査事項	菅公みらい塾について
<p>(調査結果の概要)</p> <p>防府市は山口県の中央に位置し、古くから交通の要所であった。人口規模や予算規模が三田市とほぼ同規模のまちである。調査事項である菅公みらい塾は大卒では土曜日の教育活動推進事業の中に位置づけられる。平成25年11月に学校教育法規則の改正が行われ、設置者の判断により土曜授業を行うことが可能であることが明確化された。土曜授業の活動としては地域をフィールドに地域の人材・専門家から、地域行事や学校行事に関連する活動をしてきたが、より質の高い土曜学習の構築を目指して、市教委が主体となるモデル事業として「菅公みらい塾」が設立された。菅公みらい塾には大きく3つの目的がある。①将来の防府の産業や文化を支える人材を輩出する事。②ふるさと防府で学び続ける事の意義を獲得したリーダー養成の一助とする事。③教職員の研修機会とする事。</p> <p>菅公みらい塾の対象者は市内在住の小5～中2の学生で各小・中学校を通して公募する。人数は40名程度となっているが53人まで増えた事もある。概ね40人程度で推移している。上級生が下級生を導くシステムを重要視しており、リーダーシップの養成や意識の向上に大きな影響を与えている。内容としては①日頃の勉強をさらに深く発展的な内容を学ぶ教科系②防府をもっと知り市民の一人としての自覚を育む防府系③防府の素晴らしさを体験を通して学ぶ防府系④タイムリーな話題やテーマをとらえて学ぶ特別系の4系統に分類される。運営側にも成果があり、・新たな教育の場所やテーマが開拓された。・学びを求める子供たちを発見できた。・運営を通して、市長部局、地元企業、ボランティア団体等との連携が進んだ。等がある。運営後5年が経ち卒業生が運営サイドで参加してくれるような例も出始めて良い流れが出始めているとのこと。菅公みらい塾のキーパーソンになっているのがコーディネーターの土手さんでテーマや内容の決定に深く関わっている。教育委員会の中でもコーディネーターとしての位置づけが明確化されており、教育委員会の中にも土手さんの席が用意されている。予算措置は年間100万円程度の運営費を国・県・市で1/3ずつ負担している。</p>	

(所見)

まず印象に残った事が、この事業が学校教育課で行われている事。三田市において教育部は学校教育に特化しているが、防府市では教育課が学校教育と並行してこの事業を行っている。その為、日常の教育と土曜授業、また土曜学習としての「菅公みらい塾」がうまく連動している事が感じられた。三田市においては学校教育課が日常の学習に特化しているため高い教育レベルを維持しているが、一方で学校と放課後児童クラブ、こうみんみらい塾等の間に壁のようなものを感じずにはいられない。担当部署の一元化まではいかずとも壁を取り払い風通しを良くするための努力は必要ではないかと思う。

菅公みらい塾は市内の小中学校を通して募集をかけ、40名程度のその年度の塾生を固定している(途中参加もできる)事である。このため塾生の中で面識が膨らみ上級生が下級生を導くという大きな目的の達成につながっている。また、視察を受ける中で担当の岡本氏が「菅公みらい塾の卒業生から市長を生み出したい」と幾度となく発言されていた。担当者が役職をこなしているのではなく、明確な目的と強い意志を持って取り組んでいる事を実感できた。また、国や県の補助で事業予算の2/3をまかなっているところも印象的で三田市においても補助をうまく活用されたい。この補助はいつまで続くか確証はないが、既に各団体とのつながりが固まり、また良い流れも固まりつつあるので補助が降りずとも継続は可能であるとの見通しを持たれており、この事業の継続に強い意志を感じた。一方で今後のふくらみとしてはこの事業をモデルケースとして各小中学校区に自主的に派生して欲しいとも思っているようで、そういった意味では三田市の流れも良い方向にあるのではないかと思うので今後のこうみんみらい塾の進化を期待するところである。

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	H30年4月25日(水) 10時00分～11時30分
視察先	山口県周南市
調査事項	山口県周南市徳山駅前賑わい交流施設
<p>(調査結果の概要) 現在の周南市は2003年(平成15年)4月、2市2町の合併により誕生した。これに先立ち、徳山市・新南陽市・熊毛町・鹿野町合併協議会が策定した「新市建設計画」において、中心市街地活性化事業(のちの徳山駅周辺整備事業)の一つとして本施設の整備が行われ、2005年(平成17年)には「徳山駅周辺整備事業構想」2007年(平成19年)には国、県、JR西日本との協議も行われ公共施設を中心とする「徳山駅ビル整備の基本的な方向性」がまとめられた。</p> <p>平成20年から25年までは賑わい交流施設検討会議として「徳山駅前デザイン会議」「徳山駅ビル跡地活用方針検討会議」「徳山駅周辺デザイン会議」など新たな駅ビルに導入すべき機能や徳山駅周辺の賑わいの創出について検討会議が行われ議論された。</p> <p>旧のJR徳山駅ビル約5000㎡を市が8億4千万円で購入し、解体費用と賑わい交流施設の建設に39億円、設計に1億2千万円、内装に4億円、図書室に2億4千7百万円で総事業費は55億3千8百万円です。</p> <p>駅ビルには何が要るのか?という市民アンケートの中でも図書館やカフェ、くつろげる居場所などが一番多くニーズもあったことにより平成28年に指定管理公募開始し、武雄市図書館や高梁市図書館を手がける指定管理者CCC(カルチャー・コンビニエンス・クラブ)が本施設の核となる周南市立徳山駅前図書館と一体的に管理を行うこととなり、施設内には蔦屋書店、スターバックスコーヒー、フタバフルーツパーラー、市民活動支援センター、キッズライブラリーや交流室が入って営業や業務を行っています。</p> <p>徳山市賑わい交流施設は今年2月に開店して以来、一日約6千人の来館者があり、近隣の中央図書館も一日2千人以上の来館者があることから、徳山駅前図書館は「知の広場」、中央図書館は「知の拠点」として共に市民の「知」を楽しみ、「知」を深める図書館として今後も市民に利用されくつろげる場所となることと思いました。</p> <p>所見</p> <p>現在、三田駅前の再開発もあと残すところC地区の再開発事業となり、三田駅前は第一種市街地再開発事業、徳山駅前賑わい交流施設等は社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)補助率50%街路等55%です。事業の形態はちがうものの市民のニーズは同じであることなど、三田駅前C地区再開発も色んな意見や会議等を行って市民の意見や三田の玄関口として、また中心市街地としてふさわしい開発が望まれるところです。</p> <p>準備組合の中で基本的な構想も考えながら、こういった図書館やくつろげる公共空間等が駅前に存在することが中心市街地全体の賑わいを創出していくことになり、まち全体の活性化になりうると感じました。</p>	

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時

H30年4月26日(木) 10時00分～11時30分

視察先 広島県廿日市市

調査事項 中山間地の地域公共交通について

(調査結果の概要) 廿日市市は平成15年と平成17年に合併を経て人口は118,000人の町である。広島県の西部に位置し日本3大名勝の一つ宮島がある町である。北は山口県に接し冬はスキーが出来る豪雪地帯から、南は瀬戸内海に面して海水浴も楽しめる東西に長いまちである。

公共交通としては沿岸部にJRと広島電鉄が東西に走っており、広島市内への大量輸送の役割を担っている。バス交通については佐伯・吉和といった北部と南の沿岸部を結ぶ幹線と、人口集中地区の団地と鉄道駅を結ぶ線を民間が運行しており、その空白地を埋める形で市の自主運行バスを走らせている。自主運行バスの位置づけとしてはバス車両を市が購入し無料貸与という形で民間業者がその運用を担っている。運用する民間業者は地元密着の業者を選定している。現在複数社が存在した地域はなかったが、これから着手する沿岸部ではそういった地域もあるようでプロポーザル方式などを検討しているとの事。料金は150円と200円の2種類があるが、どちらの場合でも距離制ではなく均一料金で場合によっては60kmを200円で走れるルートも存在する。かつて距離制料金だった時には高校に進学すると同時にバスの定期代で年間30万円ほどかかる事から沿岸部に家族で引っ越しするような例もあったことから通学補助の意味でも定額料金になったとの事。一見派手に見える原色のデザインが施されているが、色別にルートが分けられている。現在地域公共交通の再編を進めており、30年度は中山間地域の再編31年度は沿岸部の再編に取り掛かる予定。具体的には2系統の民間路線を市の自主運営バスに転換する予定。また、それにあわせて乗り継ぎ点をロータリー化したり、待合所を作るなどして連携の強化に努めている。

(所見)

印象的だったのは民間業者が4社あるにもかかわらず、うまくすみわけをして自主運営バスを走らせている点である。三田市においては神姫バスとのすみわけで苦心している部分を受け取るが、廿日市市ではこのたびも2路線廃止し、別の業者に自主運営を委託する準備を進めているという事で強気な印象をうけた。三田市で特に小野・高平方面において神姫バスを

残すか、コミュニティバスに移行するかといった強い判断を求められているが、しっかりとニーズを読み、その上で計画を立て決断すべき時には決断を下す覚悟がなくては地域公共交通を確立する事は出来ないとおもう。この度の視察では廿日市市の公共交通網再編実施計画や事業シートを頂けたのでそれらも参考にしながら鋭意工夫頂きたい。

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)